

32 カマキリ
Cottus kazika

(カジカ科)

兵庫県ランク:B
環境省ランク:VU

種の概要

全長20 c m程度。河川中流域の瀬の礫底に生息する。幼魚期は水生昆虫を、成長すると小魚を食べる。初冬に川を下り、真冬に感潮域から沿岸岩礁で産卵する。仔魚は沿岸で浮遊生活をしたのち河川を遡る。日本固有種で青森県から山口県にかけての日本海側、茨城県から宮崎県にかけての太平洋側の河川に分布する。別名アユカケとも呼ばれる。いずれの名前もエラ蓋にある大きな棘に由来する（カマキリ：鎌切り、アユカケ：鮎掛け）。なお、兵庫県レッドリスト2003ではアユカケの和名で掲載していた。



写真提供: 庄子 恭平

県内における生息状況及びその他特記事項

県内では日本海側の河川の中・下流域に生息するが、個体数は多くない。大きな河川に限らず、比較的小さな河川でも確認される。

保護上の留意点

本種は産卵のために川を下り、幼魚が川を遡上する。遡上能力が低いため、遡上を妨げる堰などの河川横断工作物の存在が大きな脅威になっている。海から河川の中流へと続く、河川の縦方向の連続性確保が重要で、特に河口近くの潮留堰堤の魚道構造の改良が求められる。

県内分布

豊岡市、養父市、香美町、新温泉町

【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励

主要な選定理由

人為性	激減	
	環境	○
	捕獲	
	遺伝	
特殊性	特殊	
	孤立	
学術性	極限	
	限界	
	希少	

